

2019年6月18日

令和元年度第1回 海岸工学委員会議事録

開催日時：令和元年6月18日（火）14:00～17:00

開催場所：土木学会 AB 会議室

出席者：岡安前委員長，後藤新委員長，田島幹事長，森，富田，高橋の各小委員長，渡部前小委員長，佐々木淳，小竹，太田，片山，嶋原，原田，瀬戸口，坪野，中山，中嶋，渡辺の各委員兼幹事，浅川，天野，入江，岩前，榎田，遠藤，岡田，小野，柿沼，加藤雅啓，桑江，小島，鈴木，津田，信岡，日比野，松本，宮武，山本，横木，吉永の各委員，織田(伊藤代理)，伴野(高川代理)，佐々木勇弥(荒木代理)，松田(北野代理)，中川(山城代理)，下園(川崎代理)，岡辺(加藤茂代理)，エリック・マス(越村代理)

議事録：田島

資料：

- ・ 令和元年度第1回海岸工学委員会議事次第（資料1）
- ・ PowerPoint 資料（資料2）

■2019,2020 年度委員および委員兼幹事の確認・自己紹介

■委員の就任および交代

- ・ 地球環境委員会への派遣委員→津田委員が継続

■議事前報告および議事録の確認

- ・ WEB 公開済の前回委員会および幹事会の議事録を確認した。
- ・ 2018 年度海岸工学講演会(鳥取)について，参加者数が次の通りであったことが報告された。（見学会 28，前日シンポジウム 124，講演会 617，懇親会 135）
- ・ 2018 年度活動度評価結果について，2018 年度は行事参加者数が 2546 名，出版物購読者数が 37 名で合計 2583 名となり 2500 名を越えたため，評価 A となったことが報告された。

■2019, 2020 年度委員長選挙

・ 委任者および出席者代理者を含む出席委員数(46)が定足数(委員定数の 2/3)に達していることを確認し，「土木学会海岸工学委員会委員長選挙細則(H25.6 改正)」に則り，標記選挙を実施し，以下の結果となった。

予備投票選出者：後藤委員兼幹事，佐々木委員

第2回投票選出者：後藤委員兼幹事

この結果により，後藤委員兼幹事が 2019,2020 年度海岸工学委員会委員長に推薦され，後藤委員兼幹事の承諾をもって決定された。

岡安前委員長の退任挨拶および後藤新委員長の就任挨拶がなされた。

■副委員長の推薦・承認，幹事長の指名，相談役の推挙

後藤新委員長の指名の下，以下の通り承認された。

副委員長：佐々木委員

幹事 長：田島委員兼幹事

佐々木副委員長の就任挨拶がなされた。

相談役として，青木元委員長が推挙され，承認された。

小委員長の指名は，後日，委員長よりメールで報告されることとなった。

■海岸工学論文集第 66 巻特集号査読について（森編集小委員長）

- ・登録論文数：321 編（和文 300 編，英文 21 編）
- ・査読者：115 名（幹事 28，委員 18，編集委員 30，その他 39）
- ・査読数：14.0 編/人
- ・査読者割り当て：幹事会，論文集編集小委員会，その他の各グループから第 2 専門分野まで配慮
- ・2019 年度は企画セッションは実施しない。
- ・システムに登録された 1 編の論文に，2 ページ目の図がないものがあつた。
→著者に連絡し正しいファイルに差し替えて通常通りの査読を行った。
- ・査読者の査読平均点 3.72(6 点満点)は例年とほぼ同様であつた。
- ・査読結果は 18 点以上が 221 編，17 点が 42 編，16 点が 26 編あつた。
- ・採択案として，A. 17 点以上の 263 編(採択率 81.9%)，B.A に 16 点かつ 1 点のつかなかつた論文を含む 273 編(採択率 85%)の二案が論文編集小委員会から提案され，議論した結果 B 案を採用することとした。
- ・17 点で 1 点のついた論文が一編あつたが，論文編集小委員会で採択扱いとしてよい内容であることを確認した。
- ・アブストラクト査読では採択数を多くする一方で，第二段査読で内容の伴わないものについてはしっかり審議して不採択とすることを確認した。
- ・第二段査読で不採択とする際の手続きは，現在は主査から論文編集小委員会へ報告し，論文編集小委員会で審議して採否の最終決定をすることとなっていることを確認。
- ・上記の手続きでは主査から報告のない論文については不採択にはならないため，主査による判断基準を統一することが今後の課題であることを確認した。
- ・辞退論文が 2 編あつた。本論文第一段審査による判定内訳は，A：72(CEJ 投稿予定の 28 編を含む)，B：116，C：78，D：5 となつた。D 判定のうち 1 編は二重投稿と判断された。
- ・通常号からの発表希望が 1 編を加え，本論文第一段査読終了時点での最大発表数は 267 編となつた。この発表数は 2019 年度講演会(鹿児島)における最大発表可能数よりも小さいことを確認した。
- ・著者負担金は，例年通り税込 35,000 円程度とし，通常号および CEJ 投稿者で発表する場合は 20,000 円程度とすることが提案され了承された。
- ・2018 年度に続き，本論文投稿を CEJ への投稿に代えることができることとした。その際の手続きは以下の通り(ルールは投稿案内のホームページ上で公開)
- ・CEJ 投稿予定の論文が増えた。査読に係らずに reject 扱いとなつた論文については，論文編集小委員会に報告し，論文編集小委員会で審議の上，講演会における発表を取り下げ可能性があることを確認した。CEJ への投稿状況については継続して注視する。

■第 66 回海岸工学講演会準備状況について（柿沼委員）

実行委員会：柿沼・斎田，長山(鹿児島大)，辻本(熊本大)，村上(宮崎大)，山城(九大)，瀬戸口(八千代エンジニアリング)，浅野(顧問)

日程：2019 年 10 月 23 日(水)～25 日(金)

会場：かごしま県民交流センター(開場 8:30)

懇親会：城山ホテル鹿児島

後援：国土交通省九州地方整備局，鹿児島県

- ・講演会前日の 10 月 22 日が即位礼正殿の儀(祝日)と重なつたため，前日シンポジウムおよび現地見学会は実施せず，講演会 1 日目の午後の 2 セッションの枠でシンポジウム(気候変動小委員会企画)および特別招待講演会(Prof. Patrick Lynett)を実施することとした。

■海岸工学シンポジウムについて

日時：2019年10月23日 15:00～16:30

場所：県民ホール(講演会第一会場)

タイトル：沿岸域の気候変動研究－これまでとこれから－

■招待講演

Prof. Patrick Lynett, Dept.

Civil and Environmental Engineering, University of Southern California

日時：2019年10月23日 16:45～17:50

場所：県民ホール(講演会第一会場)

司会：田中仁

■第67回海岸工学講演会の開催(会場など)について

実行委員会：水谷(名大, 実行委員長), 中部地区の委員, 幹事, 教員

日程：2020年11月11日～13日

会場：じゅうろくプラザ・岐阜大学サテライトキャンパス(いずれも岐阜駅前)

- ・第4, 第5会場がやや小さいが, 一部を椅子のみのレイアウトとすることで十分な席数を確保する.
- ・現地見学について: 長良川河口堰, 木曾三川公園, 治水神社, 名古屋港など. 集合場所・移動手段については引き続き検討する.

■第68回海岸工学講演会の開催地について

・過去開催地の履歴では関東の順番であるが, APAC2021 との同時開催を試みることで, 過去の APAC の日本開催は関東(幕張)であったことから, 京都にて開催する方向で検討することとしたことを確認. 京都における APAC2021・海岸工学講演会の同時開催に向けた WG も 2018 年度に設置済み.

■第55回水工学に関する夏期研修会(Bコース)について

日程：2019年9月9日, 10日. 会場：名古屋工業大学.

主担当は海岸工学委員会, 富田小委員長.

テーマ：「伊勢湾台風60周年：高潮・高波・沿岸防災の過去・現在そして将来」

第一日(9/9)

竹見哲也(京都大)：台風・気候変動(共通セッション)

中部地整：東海ネーデルランド(共通セッション)

愛知県：愛知県における高潮防災の取り組み

平山克也(港湾空港技術研究所)：高波災害と対策

第二日(9/10)

加藤孝明(東京大学)：防災まちづくり(都市計画)(共通セッション)

平山修久(名古屋大学)：災害ごみ(共通セッション)

安田誠宏(関西大学)：減災アセスメント

喜岡渉(名古屋工業大学名誉教授)：伊勢湾台風とその後の防災

■2020年度水工学夏期研修会について

・幹事は水工学委員会. 高知県で開催することが決定. 海岸工学委員会は山中委員にご担当いただくこととなった.

■Coastal Engineering Journal について

- ・Special Issue として以下の二つが発刊した

- 1.Special Issue on Estuarine hydrodynamics and morphodynamics (2018 December)
guest editor: H. Tanaka & H. Chanson. (11 編)
 - 2.Special Issue of SPH for Coastal and Ocean Engineering (2019 March)
guest editor: H.Gotoh, & A. Khayyer (7 編)
- Special Issue of Tsunamis in Latin American Countries, guest editor: E. Mas & S.Koshimura)が現在査読中である。アブストラクト投稿 23 編→18 編が採択され本論文を受付中。2020 年 3 月に出版予定
 - 2021 年出版の special issue として Blue carbon engineering(guest editor: T. Kuwae and S. Crooks)が予定されている。
 - Coastal Engineering Journal Award について、選考プロセスを説明し了承され、結果として 2018 年度は以下の論文が受賞することとなった。
Davide Wüthrich, Michael Pfister, Ioan Nistor & Anton J. Schleiss (2018) Experimental study on the hydrodynamic impact of tsunami-like waves against impervious free-standing buildings, Coastal Engineering Journal, 60: 3, 180-199, DOI: 10.1080/21664250.2018.1466676
 - JAMSTEC 中西賞への推薦論文は、次点の候補で日本人の著者であった以下の論文となった。
Yoshinao Matsuba & Shinji Sato (2018) Nearshore bathymetry estimation using UAV, Coastal Engineering Journal, 60:1, 51-59, DOI: 10.1080/21664250.2018.1436239
 - CEJ Citation Award についても選定プロセスが説明され、以下の論文が受賞することが報告された。
Anawat Suppasri, Panon Latcharote, Jeremy D. Bricker, Natt Leelawat, Akihiro Hayashi, Kei Yamashita, Fumiyasu Makinoshima, Volker Roeber & Fumihiko Imamura (2016) Improvement of Tsunami Countermeasures Based on Lessons from The 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami — Situation After Five Years, 58:4, 1640011-1-1640011-30, DOI: 10.1142/S0578563416400118
 - 2018 年の投稿数は 112 編(過去 3 年間は 139, 111, 108)だった。2019 年度の投稿数は現時点で 22 編とやや低調。査読の迅速化のため CEJ 小委員会で査読方法を見直す予定。
 - 2018 年度の海岸工学特集号の代わりに CEJ への投稿を選択した論文は 13 編でそのうち 2 編は投稿を棄権した。11 編の投稿のうち 6 編が採択・出版された。2 編は査読継続中、1 編は修正後に decline, 2 編は修正原稿が未提出である。海講→CEJ の論文についてはモニタリングを継続する。
 - 2017 年度の IF は 1.246(2018 年度は 2.016 となったことが委員会後に判明)。査読体制を強化し迅速化を図る。

■委員会ロゴおよび委員会 HP について(広報小委員会)

- 2018 年度の委員会予算を活用して、海岸工学委員会のロゴとホームページの整備を進めている。
 - ロゴは幹事会メンバーからのコンセプト案に基づき、10 種類のデザイン案が提示され、議論・投票により、一案に絞り込まれた。さらにこの案に対して色合いやフォントなどのデザインの検討を進め、さらに 10 案が提示されたが、幹事会で選ばれた案が最終案として選定された。
 - ホームページについて、WordPress を基盤にデザインを一新し、現在の委員会ホームページのコンテンツを移行する案が示された。
- コンテンツは構成が分かりづらくなっているため、再整理してもらうこととした。
- ホームページの移行作業は、特集号の査読が終わる 7 月から開始し、9 月末の第一回幹事会を目途に移行する。
 - 移行直前まで現在のホームページで、イベント情報などは更新できるが、移行期間中(7 月～9 月)に更新された内容は、移行後のホームページには反映されない可能性があることに留意する。

- ・ホームページの刷新にあわせ、WordPress を用いた委員・幹事による更新作業のためのマニュアルも整備し納品される予定。

■2019, 2020 年度の研究小委員会について

- ・各小委員会から活動報告書を提出してもらい委員に事前回覧した。
- ・常設の沿岸域研究連携推進小委員会に加え、以下の研究小委員会が 2019,2020 年度も継続することとなった。
 - 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会(2015～)
 - 減災アセスメント小委員会(2014.10～)
 - 地盤材料小委員会(2016～)
 - 気候変動小委員会(2017～)
- ・地域研究活性化小委員会は 2019 年度より、地域研究活性化連絡会(WG)に移行して活動を継続することとなった(主査は富田委員兼幹事)。
- ・波動モデル研究会も 2019,2020 年度に継続する。
- ・減災アセスメント小委員会、地盤材料小委員会、気候変動小委員会、波動モデル研究会(2017 年まで研究小委員会)は、出版物・報告書等の成果を出すことについても検討を進めってもらうことを確認した。

■その他

(1)APAC 2019 について(2019 9/25～9/28@ハノイ)

- ・アブストラクト投稿数 335 編 → 322 編採択
- ・フルペーパー投稿数 230 編(15 カ国。うち 66 編が日本から)
- ・フルペーパーの第一段査読で 46 編が採択、183 編が再査読、1 編が不採択となった。
- ・フルペーパー査読 (1st: 5/3～5/23, 2nd: 6/11～6/24)
- ・最終原稿提出：6 月 30 日
- ・proceedings は Springer Nature から出版(Scopus index)

(2) APAC Council および International Steering Committee について

- ・2019 年度から 4 年間のメンバーを以下の通りとした。

Council

- 佐藤(任期なし)
- 後藤(海岸工学委員長枠、4 年再任不可)

Int. Steering Committee

- 渡部(幹事枠、4 年再任不可)
- 柴山(留任、4 年再任可)
- 原田(新任、4 年再任可)
- 田島(留任、4 年再任可)

(3)ICCE2024 について

- ・ICCE2024 の仙台への招致活動を目的とする WG を設置した。主査は田中教授(東北大)、世話人は越村副委員長、そのほかのメンバーは佐藤相談役、岡安委員長、後藤副委員長、今村教授(東北大)、田島幹事長、有働准教授(東北大)。
- ・CECAR8 開催中の 4/16 に第一回打ち合わせを行い、以下のメンバーに新たに WG に加わっていただくこととなった。
 - 栗山善昭(港湾空港技術研究所) / 渡部靖憲(北海道大学) /
 - 森信人(京都大学) / 志村智也(京都大学) / 澁谷容子(東洋建設) /
 - 伴野雅之(港湾空港技術研究所) / 木原直人(電力中央研究所)

(4) JSCE—CCES Joint Symposium of Civil Engineering について

- 土木学会（JSCE）国際センターと中国土木工程学会（CCES）が共催する JSCE—CCES Joint Symposium of Civil Engineering について、土木学会副会長、国際センター長 上田多門先生から協力要請があり、第3回として、2020年に日本で開催する際には、海岸工学ならびに水工学を主なテーマとするため、海岸工学委員会からも広く講演者の参加を募る協力をする事とした。

(5) 講演会 & 論文集(特集号)の今後の方針について

- 投稿数が過去4年で 382→362→312→321 と推移している。
- 講演会の充実(発表数, 参加者数)と特集号の質の維持の両立が重要。
- 3月に投稿して11月には論文が公開される現在の特集号の仕組み(良い論文は確実に11月までに公開される)を維持することも重要。
- 要旨査読と、本論文査読の位置づけを再考してもよい。採択論文の質を維持するためには第二段査読が重要となる。
- 本論文査読において、D判定(返却)とする際の手順について確認した。D判定の最終判断は論文編集小委員会幹部の同一メンバーで実施することで基準の統一性を維持する。
- CEJへの投稿を本論文投稿に代える仕組みで2018年度は12編のCEJへの投稿があり、2019年度は28編に増えた。これらの論文のその後の投稿状況・採択状況についてもモニタリングを続ける。

以上